2026年8月5日

新規受託項目のお知らせ

謹啓　時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
　平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
　この度、下記の検査項目を新たに受託開始させていただくことになりましたので、ご案内申し上げます。
　今後も弊社では皆様方のご要望にお応えできるよう、検査内容を充実させて参りますので、何卒お引き立ての程よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

【新規受託項目】

コードNo.	検査項目名	
14298（従来システム 6742）	肺がんコンパクトパネルCDx 8遺伝子	FFPE
14300（従来システム 6744）		細胞検体
14299（従来システム 6743）		凍結組織

◎本検査の受託に際しましては、アカウント登録申請が必要になります。

この度、非小細胞肺癌の治療薬の適応判定補助を目的とした「肺がんコンパクトパネル® Dx マルチコンパニオン診断システム」におきまして、現行の解析対象 7 遺伝子（*EGFR*、*BRAF*、*ALK*、*ROS1*、*RET*、*MET*、*KRAS*）に、新たに *HER2*（*ERBB2*）遺伝子が追加承認されました。
また、新たに *EGFR* 遺伝子エクソン 20 挿入変異及び *ALK* 融合遺伝子に対する関連医薬品のコンパニオン診断薬（CDx）としても追加承認されると同時に、非小細胞肺癌における *EGFR* 遺伝子変異を検出する医薬品横断的コンパニオン診断薬（CDx）としても一部変更承認されましたので、新規項目として受託を開始いたします。

［本検査の対象 8 遺伝子と関連する医薬品］

遺伝子変異など	関連する医薬品
*EGFR*遺伝子変異（exon20 Insertion以外）	EGFRに対する分子標的薬
*EGFR*遺伝子変異（exon20 Insertion）	アミバンタマブ（遺伝子組換え）、アミバンタマブ（遺伝子組換え）/ボルヒアルロニダーゼ アルファ（遺伝子組換え）
*BRAF*遺伝子V600E変異	ダブラフェニブメシル酸塩 及び トラメチニブ ジメチルスルホキシド付加物の併用投与
*ALK*融合遺伝子	クリゾチニブ、アレクチニブ塩酸塩、ブリグチニブ、ロルラチニブ
*ROS1*融合遺伝子	クリゾチニブ
*RET*融合遺伝子	セルペルカチニブ
HER2（*ERBB2*）遺伝子変異	トラスツズマブ デルクステカン（遺伝子組換え）
*MET*遺伝子 exon14 skipping mutation	テポチニブ塩酸塩水和物
*KRAS*遺伝子G12C変異	ソトラシブ

【開始時期】2026年8月3日（月）ご依頼分より

尚、詳細につきましては、営業担当者またはインフォメーションまでお問い合わせ下さい。
株式会社 岡山医学検査センター
本社　〒710-0834 倉敷市笹沖 468 番地の 5
インフォメーション　TEL(086)427-2323
ホームページ　http://www.oml-inc.jp

【受託要領】

コード No.	14298（6742）	14300（6744）	14299（6743）
検査項目名	肺癌コンパクト8FFPE	肺癌コンパクト8細胞検体	肺癌コンパクト8凍結組織
検体量	FFPE （未染色スライド または パラフィン切片） 5μm厚　5～10枚	細胞 （TBB、TBNAブラシ 擦過細胞診検体 または 胸水・鉗子洗浄液、 FNAの液性検体） 1mg（1mm角）以上	生検組織 凍結細胞（沈渣） 1mg（1mm角）以上
採取容器	スライドケース または 36	専用容器 （GM管：2mL庇護液入り）	36
保存方法	室温	冷蔵	凍結
検査方法	次世代シークエンス（NGS）法		
基準範囲	なし		
単位	なし		
所要日数	7～12日		
報告範囲	【別紙報告】 対象となる遺伝子ごとに検出変異と判定（「陰性」あるいは「陽性」）をご報告します。		
検査実施料/判断料	20000点 / 遺伝子関連・染色体検査 100点		
	以下を合算しての算定となります。 「D004-2」悪性腫瘍組織検査　1 悪性腫瘍遺伝子検査 注1　ハ　処理が容易なもの　4項目以上同時実施　8000点 注2　ロ　処理が複雑なもの　3項目以上同時実施　12000点		
検査最終委託先	株式会社DNAチップ研究所		
備考	・本検査の受託に際しましては、アカウント登録申請など事前手続きが必要となります。 （アカウント登録が完了しているご施設様につきましては、専用クラウドシステムから 検査結果確認が可能となります。） ・専用依頼書にてご依頼ください。		

＊コード No.について ： 括弧内は従来システムのコード No.を表記しています。

［出検時の注意事項］

1. FFPE 検体は腫瘍細胞が 5%以上含まれていることをご確認の上、提出してください。腫瘍細胞含有率が5%に満たない場合はマクロダイセクションの実施が必要となります。その際は、全ての未染スライドの裏面に油性マジックペンにて腫瘍部位を囲うようにマーキングをお願いいたします。

2. 擦過細胞診検体、液性検体は採取後、検体を 2 本に分けてください。一方の検体で細胞診評価を行い、腫瘍細胞の有無（腫瘍細胞が 5%以上含まれること）をご確認ください。もう一方の検体は、別途定めた手順に従って処理した細胞を、GM 管に懸濁して冷蔵保存してください。腫瘍細胞の存在をご確認後、GM管に懸濁した検体のみを冷蔵にてご提出ください。（コード No.14300）

3. GM 管を使用していない凍結細胞沈渣は、凍結のままコード No.14299 にてご依頼ください。

4. 生検組織検体は必ず病理組織的に鏡検し、腫瘍の有無（腫瘍細胞が 5%以上含まれること）をご確認の上、提出してください。

5. 本検査の実施に関しては、検査の目的、結果の解釈や取り扱いについて患者への十分な説明の上、検査実施の同意を得られたことを前提にご依頼いただくようお願いいたします。

以上